

「令和の日本型学校教育とICTの活用」

山梨県総合教育センター 所長 廣瀬 浩次

小学校にとって新学習指導要領元年である令和2年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校は一斉臨時休業という異例のスタートとなり、休業明けも「学校における新しい生活様式」のもとでの活動が必要とされる等、学校現場の先生方におかれましては、現在もなお、大変なご苦労をされているものと推察いたします。正にコロナ色といっても過言ではなく、これまで当たり前であったことが当たり前でなくなった1年でありました。

このような状況の中、令和3年1月26日、中央教育審議会から「令和の日本型学校教育の構築を目指して（答申）」が公表されました。「日本型学校教育」を、「学校が学習指導のみならず、生徒指導等の面でも主要な役割を担い、様々な場面を通じて、子供たちの状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む教育」と定義し、全人教育として諸外国から高く評価されているとしています。これらを踏まえ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」としました。「協働的な学び」とは、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた学校ならではの協働的な学び合いのことであり、一方、「個別最適な学び」とは、児童生徒の興味・関心を生かした自主的、主体的な学習が促されるよう工夫するなど、学習指導要領で重視されてきた、教師視点の「個に応じた指導」に対する学習者視点から整理した概念であるとしています。そして、これからの学校においては、子供が「個別最適な学び」を進められるよう、子供の実態に応じて、学習内容の確実な定着を図り、その理解を深め、広げる学習を充実させ、その際にICTの活用が重要であるとしています。予測困難な時代、また、新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明となる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われており、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、正に、新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められていると言えます。

今年度、小学校で全面実施の新学習指導要領は、来年度、中学校で全面実施となります。また、新感染症対策等により、GIGAスクール構想が前倒しとなり、小・中学校には、一人一台端末が今年度中に整備される見通しです。「令和の日本型学校教育」の実現、新学習指導要領の着実な実施のためにも、ICT、一人一台端末の活用等、確かな対応が求められることとなります。そのためには、教員がICTを授業に活用して指導する能力はもとより、児童生徒のICT活用を指導する能力の向上が必要となります。

本センターにおいても、ICT活用を喫緊の重要課題と位置付け、来年度研修計画基本方針の重点項目とし、センターを拠点としたICT活用研修の推進、学校訪問等を通じた活用の推進、eラーニングや指導事例等、データベースの一層の充実が必要であると考えております。また、各学校でICT活用推進を図るリーダーを養成するための研修を取り入れるなど、県下全教員のICT活用指導力向上に向けた支援を行っていく必要があると考えており、準備を進めているところです。

今後、センターとして「子供たち、先生方、学校のために何ができるか」を第一に考え、本県教育の充実と発展のため、山梨教育の「知の拠点」としてシンクタンク機能を充実させるよう、力を尽くしてまいりたいと考えております。コロナ禍のもと、先行き不透明感は拭えませんが、一人一台端末元年が順調にスタートし、学校教育活動が着実に実施されることを願います。



2020やまなし教育フォーラム「山梨県で『学校の先生』になろう！」を開催しました。

研修指導課 西室 直哉

山梨県総合教育センターでは、令和2年12月13日（日）に、県教育委員会主催による2020やまなし教育フォーラム「山梨県で『学校の先生』になろう！」を県立図書館多目的ホールからのオンライン配信により開催しました。

昨年度、県立図書館会場に130名の高校生・大学生を集めて行われた第1回「教員養成フォーラム」でしたが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、当初予定した「対面集合・遠隔オンライン」併用方式から「完全オンライン」方式に切替えての開催となりました。

新型コロナウイルス感染拡大傾向の中、県内各校種において活躍される現役若手教員5名の方をパネリストとして招き、和やかな雰囲気の中で第一部パネルディスカッション「山梨県で教師をする『魅力』を語ろう！」を行いました。オンライン配信を視聴した211名の高校生・大学生からは、「若い先生方の生の声が聞けたことで先生という仕事がより身近に感じられた」「学校現場の様子を養護教諭や特別支援学校等、多校種の先生から聞くことで視野が広がった」「山梨県で先生になることの魅力を改めて感じた」等の声をいただきました。

第二部ミニ二講義では県教育委員会人事担当者を講師に招き、「山梨県で学校の先生を目指す皆さんへ」と題して、公立学校教員選考検査に関する直近の情報等が提供され、大学生からは「先生方の話以外にも県教育委員会の方から直に教員選考検査の詳しい内容を教えていただき、絶対に山梨県で先生になりたいというモチベーションが上がりました」「来年度の教員選考検査の詳細や、若い先生方からのアドバイスがとても参考になりました」等の声をいただいています。

その一方で「もう少しディスカッションの時間を長くって欲しかった」「相互に質問や意見が言える場にして欲しい」「教師として長年働いている先生方のお話も聞きたかった」等、今後への課題となる声も届いています。

初めての「完全オンライン」方式での開催となり難しい面も多々ありましたが、パネリスト、講師をはじめとする関係各位のご協力によって無事にやまなし教育フォーラムを開催出来たことに心より感謝申し上げます。

研修指導課

令和時代の「新たなやまなし教育」を支える ～学び続ける教師のために～

平成から令和へと時代は移り、新学習指導要領が小学校において全面実施となった令和2年度。

新型コロナウイルス感染症が世界中を覆い、山梨においても緊急事態宣言下の一斉臨時休業によって子供たちの学びは停滞し、それを再起し支援する使命が、全ての先生方に求められています。

この状況のなか、研修指導課では「学び続ける教師のために」をテーマに、研修の受講機会を確保すること、安全安心な研修を実施することを念頭に置き、「やまなし教員等育成指標」に基づいて体系化された149の研修会を実施してきました。今年度の研修会実施における状況は次の通りです。

(1) 研修受講者数および受講者満足度

延べ受講者数	14,452人（令和元年）	→	11,315人	（令和2年）※
受講者満足度	93.7%（令和元年）	→	95.9%	（令和2年）

※夏季休業中における「夏期研修会」参加者の減少による。

(2) 感染拡大防止対策を講じた研修会の実施

新たな研修形態（遠隔オンライン方式等）への取組により、講師、受講者が来所不可能となった際の研修受講の方式を探る中で、所内外の通信環境の更なる整備やICT活用促進に向けた、次への一歩を踏み出さなくてはならないと考えています。

(3) 代替実施における研修内容の質の担保

やまなしeラーニング、センターホームページ等の活用によるオンデマンド方式（代替実施）に取り組みました。オンラインによる資料映像等の提供と受講者への督励など、研修内容の質の担保を図るべく、今後も検証と検討を進めていきます。

これからもこの先に訪れるウィズコロナ、アフターコロナの時代をたくましく生き抜く子供たちの未来のために学び続ける教師の姿の具現化を目指して、今日的教育課題解決のための研修を企画・実施していきます。

令和3年度、本センター研修会への積極的な参加をお待ちしています。

調査研究課

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大による公立学校の一斉休業という異例のスタートとなりました。その影響から、全国学力・学習状況調査などの各種学力調査が中止となり、調査研究課で行う採点講習会などの業務も中止を余儀なくされました。そのような中、調査研究課では、学校や児童生徒に対して可能な支援を模索し、実施してまいりました。休業中の児童生徒の家庭学習の支援や学校再開後の授業がスムーズに行えるよう、義務教育課と協力し、教科書解説動画の作成・配信や、ピックアップ問題解説動画の作成・配信等を行いました。また、各種学力調査結果が得られない状況ではありましたが、これまで蓄積してきた分析データから今年度の学力調査問題を生かして授業改善資料を作成し、各地区の校長会で説明、配付をさせていただきました。

実施から3年目となりました「授業・学校づくり、情報教育、教育相談、特別支援教育」の4つの領域の実践研究であるセンター研究も、研究協力校の訪問ができない中でスタートとなりましたが、動画配信による学習会の実施などの工夫を行うとともに、山梨大学のアドバイザーの先生方の丁寧なご助言等をいただきながら、研究協力校の校内研究の活性化や課題解決の支援を進めてまいりました。

令和3年度は、今年度の経験を踏まえつつ、山梨教育の「知の拠点」としてシンクタンク機能を更に充実させ、新たな教育課題への対応や教職員の教育力向上に寄与することができるよう、実践的な学校支援を全指導主事が一丸となって取り組んでまいります。

相談支援部

コロナ禍での相談支援体制及び研修・研究の充実を目指して！

○コロナ禍での安心した教育相談の充実

- ・いつでもどこからでも相談できる「電話相談」（365日24時間体制で対応）とアクリル板衝立等を施した感染防止策を徹底し、安心した面接相談が行えるように環境を整えて実施してきました。
- ・就学・転入学に係る相談支援等の業務はもちろんのこと、感染防止策を徹底し、連携・継続した面接相談も積極的に取り組んできました。

○教育相談等に係る研修の充実

- ・児童生徒理解、教育相談、特別支援教育等の推進・充実に向けた研修会の企画・実施をしてきました。今年度は、集合研修だけではなく、オンライン研修、代替研修等、状況に応じた実施方法の工夫をしました。

○センター研究の充実

- ・教育相談グループでは、白根東小学校を研究協力校とし「授業を支える集団づくりの充実を目指す学校へのアプローチ」を、特別支援教育グループでは、日下部小学校を研究協力校とし「学習障害等のある児童生徒への支援の充実に関する研究」をそれぞれ研究テーマとして取り組み、多くの成果を得ることができました。
- ・センター研究の成果の発信をするとともに、常時、ホームページを更新し、コロナ禍での心のケア、特別支援教育に関する子供への支援方法等、学校にとって有益な情報を積極的に発信してきました。

○不登校児童生徒への支援の充実

- ・石和こすもす教室では、感染症拡大防止策を講じ、新しい生活様式を踏まえた教室運営をしてきました。不登校が続いている児童生徒の心の居場所づくりを基本に、自立に向けた適応指導と学習指導を行いました。随時、保護者や教職員からの相談にも応じました。

来年度も、ウィズコロナ、アフターコロナでのさらなる教育相談の充実、内容と形態を工夫した研修の企画、研究協力校のニーズに応じた教育相談・特別支援教育に関する研究の推進に重点をおいて取り組んでいきます。

情報教育部

ICT活用指導力向上の取組

今年度は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICTの効果的な活用とICT活用指導力向上を目的とした研修会を、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも9講座開催し、延べ203名が受講されました。来年度に向けては、GIGAスクール構想の前倒しや、県立学校へのICT環境整備等で導入される機器を想定した研修会も企画・立案して研修内容の一層の充実を図り、現場の先生方を支援していきます。また、全国の動向や最新機器の活用等の情報収集に努め、ICT活用の普及啓発を続けていきます。

やまなしeラーニング（YeL）の充実

YeLの運用では、広報活動の促進、研修内容とコンテンツの関係性の強化、自主研修や校内研修に活用できるコンテンツの増設等に取り組み、さらなる研修の充実と効率化、利便性の改善を行っています。今後も利点を最大限生かすための工夫改善を図っていきたいと思います。

センター研究：情報教育に関する研究

情報教育に関するセンター研究では、研究協力校である鳴沢小学校の協力を得ながら「教員のICT活用指導力の向上を図るとともにICT機器を活用した授業改善の支援」について研究を進めてまいりました。今年度は、その成果と課題を発表する場はなくなりましたが、研究資料をホームページに掲載しておりますので、ご覧いただき現場での指導の一助にいただければ幸いです。

学校の情報化推進のための基盤整備と支援

グループウェア、教育情報ネットワーク、校務処理システム、旅費・休暇システム等の運用管理や各学校における情報教育・ネットワーク担当者の養成研修をはじめ、情報教育に関する相談業務を通して、業務の効率化と教育の情報化を支援しています。また、ハイユースPC等の運用支援およびネットワークシステムの運用支援を行っています。ご不明な点はお気軽にご相談ください。

「山梨県総合教育センター研究大会」を終えて

教育研究推進幹 田沢 憲

令和3年2月18日、「やまなしの学び 新たな時代へ ～すべては子供たちの未来のために～」を大会テーマに「山梨県総合教育センター研究大会」を開催いたしました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大にともない、当初予定しておりましたポスター発表とラウンドテーブルは行わず、開催行事と特別講演のみオンラインで配信し、基調提案の概要説明において研究の一端をご紹介しますとともに、研究内容をまとめたスライド資料をホームページへ公開することで発表に代えさせていただきます。開催方法の変更があつたにもかかわらず、県内200か所以上からオンラインによるご参加をいただき、大会を開催することができましたことに心より感謝申し上げます。

各研究協力校におかれましては、感染予防対策の徹底に加え、コロナ禍により学校行事や教育課程の見直しを迫られる中、子供たちの学びに全力で向き合い、校内研究及び本センター研究を推進していただきました。本大会において、各学校の研究内容や具体的教育実践を直接お伝え出来なかったことは誠に残念ではありますが、今年度の研究成果を県内各学校に還元できるよう、今後も様々な形で発信してまいりたいと思います。

今後も、山梨県総合教育センターでは「教育研究・学校支援・教育情報収集・提供」の機能連携による「知の拠点」としてのシンクタンク機能の更なる充実を図り、本県学校教育の振興と充実に寄与できるよう、研究を進めてまいります。今後ともご理解ご協力をお願いいたします。

「研究大会特別講演（特別研修会Ⅱ）」

ふじ内科クリニックの院長であり、ホスピス在宅ケアの第一人者である内藤いづみ氏による「特別講演」を、『読書から学んだいのちの原点～在宅ホスピス医からのメッセージ』と題し、配信開催いたしました。

穏やかで凛とした先生のお話は心に響き、私たちは時間が経つのを忘れ、先生のお話惹き込まれ、胸が熱くなりました。

講演の中で、「いのちは時間である」、また、児童生徒を、「今を精いっぱい生きる、焦げるほどのいのち」と例え、教育関係者が「いのち」に向き合うことの大切さを改めて認識させられる力のあるお言葉をいただきました。視聴者から、「学校現場や自分の家族に置き換え、考えさせられた」との声が届きました。

幼少のころから読書がお好きだったという先生から、私たちに「好きな本を3冊思い浮かべてください」という宿題が出されました。「本は、希望をもって生きるための活力」「教師は信頼される大人でいてほしい」という言葉に、目の前の子供に寄り添う教師でありたいと励まされ、気持ちを奮い立たせた先生方も多かったようです。

私たちは、これからも一人一人の子供とその背景にある家族や生活経験を尊重し、目の前の子供たちに寄り添う姿勢を忘れずに過ごしていきたいものです。

令和3年度研修会申込手続きについて

令和3年度研修会申込事務説明会

日時：令和3年4月8日(木) 受付 13:20～13:40

説明会 13:40～16:40

場所：山梨県総合教育センター 大研修室

各校の研究主任（研修担当）の先生方を対象に、令和3年度に行われる研修会の申込の仕方について説明を行います。昨年度より運用開始となりました研修履歴票の作成や活用の仕方についても説明を行います。

【注意】新型コロナウイルス感染症対策のため、実施方法の変更等も考えられます。その場合は、本センターホームページにて連絡しますので、ご確認ください。



YAMANASHI PREFECTURAL
EDUCATION CENTER

編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 廣瀬 浩次
発行日 令和3年3月17日